佳作

七夕が三回の家族

青森県
青森市立浦町小学校 三年
太原 杏歌

　私の父と母は、広島市でお店を三店開いています。広島市に父の家があるからです。お客さんにお酒やお料理を出すお店なので、父と母は、夜おそくまで一生けんめいはたらいています。だから、私は三才のころから、母の家がある青森市で、祖母と母の兄と私の三人でくらしています。

「さみしくないの？」

と、クラスのみんなからよく聞かれます。小さいころは、さみしくてよく泣いていました。ほかの人がお父さんお母さんと仲良く歩いていると、うらやましくて会いたくなってしまいます。みんなも、お父さんお母さんとはなれてくらしたら、きっとさみしいと思います。

　父と母は、お店がふえてとてもいそがしくなったのにもかかわらず、さんかん日などの何かがあると、交代で青森へ帰ってきてくれます。そして、いつも、

「はなれていても、杏歌は宝物だから。」

と言ってくれます。だから、私はその分勉強をがんばってお返ししようと思っています。

　私が広島に長くいられるのは、春・夏・冬休みの三回です。一年にたった三回だけです。だから、私が五才のときに、

「七夕が三回だね。」

と言ったことがありました。すると、母が、

「夜、いつもお月さまを見て、杏歌も同じお月さまを見ているのかなあと思うと泣きそうになる。」

と、えがおで言ってくれてことがあって、すごくうれしかったのをおぼえています。だから、私も小さいころからお月さまを毎日見るようになりました。お月さまを見ると、どんなにどんなにどんなにはなれていても、心はいっしょだと思えます。

　そして、私のことをずっと見ていてくれている祖母やおじさんも大好きです。祖母にはずっと長生きしてほしいと思っています。

　私の家は、ほかの家とはちがうけれど、私はとっても幸せです。お父さん、お母さん、おばあちゃん、おじさんがいるし、友だちもたくさんいるので、いつもわらっていられます。それに、もう三年生だから、さみしくないし、泣かないです。

　今年の夏休みは、お父さんとお母さんのお店の手伝いをします。まだ子どもなので、お皿あらいくらいしかできないけれど、一生けんめいがんばって、少しでも役に立ちたいです。

　私は、広島から青森に帰るときは、いつも後ろを見ないようにしています。見るとさみしくなるからです。お母さんもいっしょだと言っていました。でも、今年はちゃんと後ろを見て、

「ありがとう。」

って言おうと思います。

　いつだって、私のことを考えていてくれる家族が、私の世界一の宝物です。